

---

# Research Press

— インターネットリサーチレポート —

---

VOL.004

## 資産に関する調査レポート

SAMPLE

平成21年11月

株式会社日本統計センター

## 、調査概要

### 1. テーマ

金融資産、自家用車の保有状況を調査しました。

(保有している金融資産の種類、預貯金額、資産運用商品(有価証券)保有額、自家用車保有状況)

### 2. 調査対象地域と対象者

調査対象地域は日本全国、調査対象者は日本全国のフルーツメール会員のうち、ブロック別・性別・年代別の調査対象者数を2008年住民基本台帳人口比に応じて設定し、調査を実施しました。

### 3. 調査方法

インターネットリサーチ(アイブリッジ株式会社が提供するリサーチプラス)により実施しました。

### 4. 調査実施時期

平成21年1月23日～平成21年2月18日の間で実施しました。

### 5. 回収数

日本全国で58,293名の回答を回収しました。

ブロック別、性・年代別の回収率は下表のとおりです。

	サンプル数	20歳未満		20～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60歳以上	
		男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
全国計	58293	1.1	1.5	5.1	9.4	6.4	10.1	10.1	10.5	21.2	9.6	11.6	3.2
		2.6		14.5		16.5		20.6		30.8		14.8	
北海道	2594	1.4	1.5	5.9	10.1	4.6	10.4	10.0	10.9	22.2	10.5	9.7	2.9
		2.9		16.0		15.0		20.9		32.7		12.6	
東北	3311	1.1	1.7	5.1	10.0	5.8	9.9	11.1	10.6	23.2	9.0	10.2	2.4
		2.8		15.1		15.7		21.7		32.2		12.6	
関東	23254	1.0	1.3	4.7	8.9	6.5	10.4	10.4	11.0	20.8	9.3	12.3	3.3
		2.3		13.6		16.9		21.4		30.1		15.6	
北陸	2022	1.4	1.9	6.3	8.4	7.3	9.9	11.4	10.2	21.3	8.6	10.0	3.3
		3.3		14.7		17.2		21.6		29.9		13.3	
中部	6621	1.3	1.9	6.0	10.3	6.9	10.1	9.9	9.2	22.3	9.1	10.5	2.5
		3.2		16.3		17.0		19.1		31.4		13.0	
近畿	11228	1.0	1.5	5.0	9.3	6.3	9.1	9.5	10.3	20.7	10.7	12.8	3.8
		2.5		14.3		15.4		19.8		31.4		16.6	
中国	3103	1.2	1.7	4.8	9.0	6.3	10.5	9.2	10.7	21.9	10.2	11.5	3.2
		2.9		13.8		16.8		19.9		32.1		14.7	
四国	1529	1.5	2.0	4.3	9.5	6.9	9.7	11.1	10.5	21.3	9.3	10.9	3.0
		3.5		13.8		16.6		21.6		30.6		13.9	
九州	4631	1.3	1.7	5.1	10.8	6.3	11.0	9.2	10.6	21.1	9.7	10.5	2.8
		3.0		15.9		17.3		19.8		30.8		13.3	

### 6. 集計・分析上の注意事項

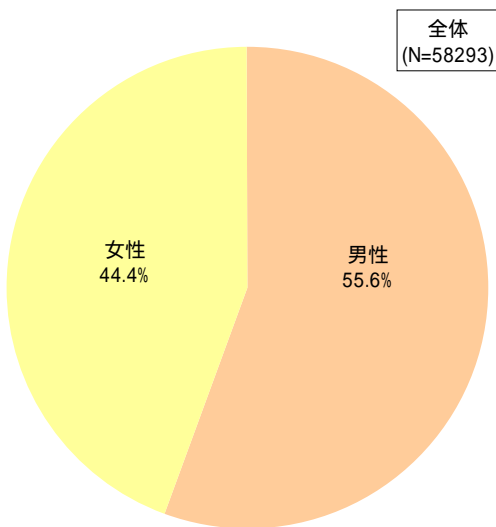
サンプル数は「N」で表記しています。

集計値は、原則として回答数の合計を100とした場合の構成比で、小数点第2位以下を四捨五入した値で示しています。このため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。なお、複数回答(2つ以上の選択肢を回答)は原則として100%を超えます。

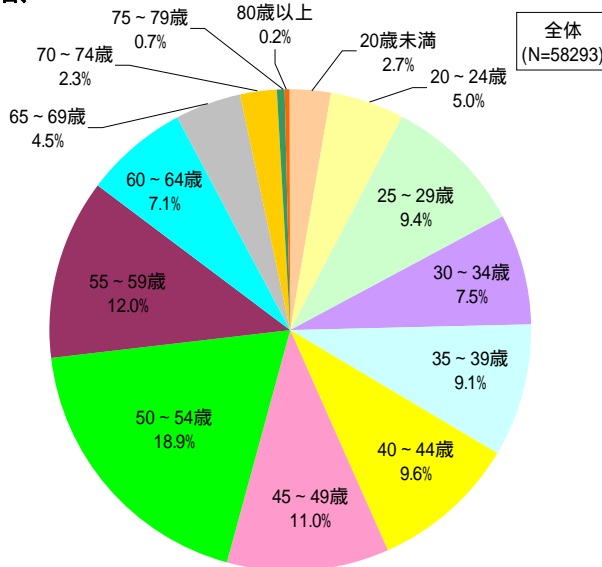
7. 回答者の属性

回答者の属性（調査項目の一部）は以下のとおりです。

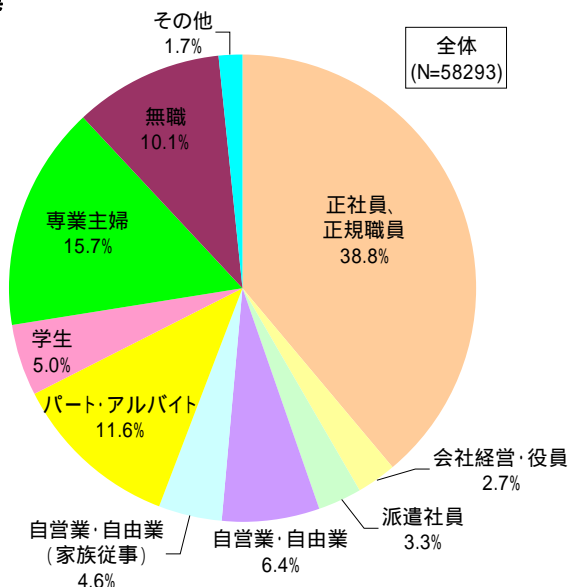
性別



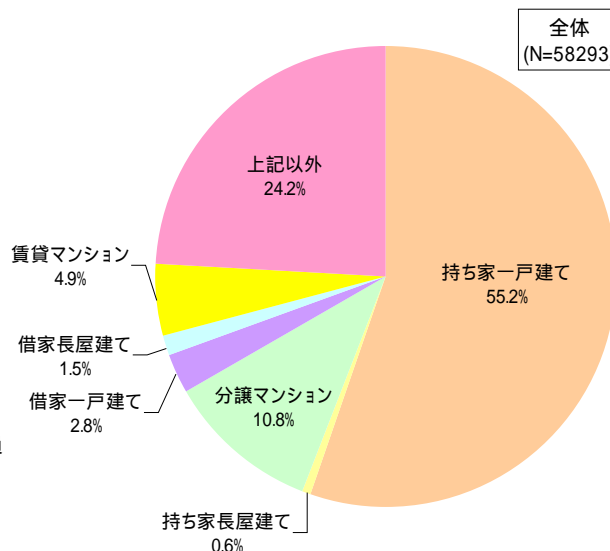
年齢



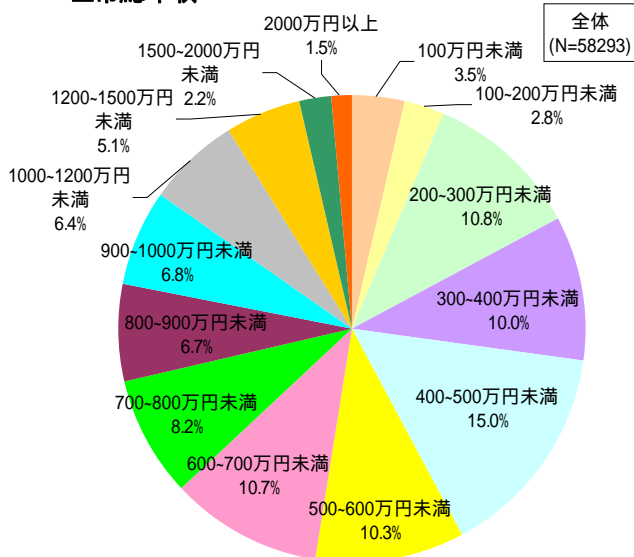
職業



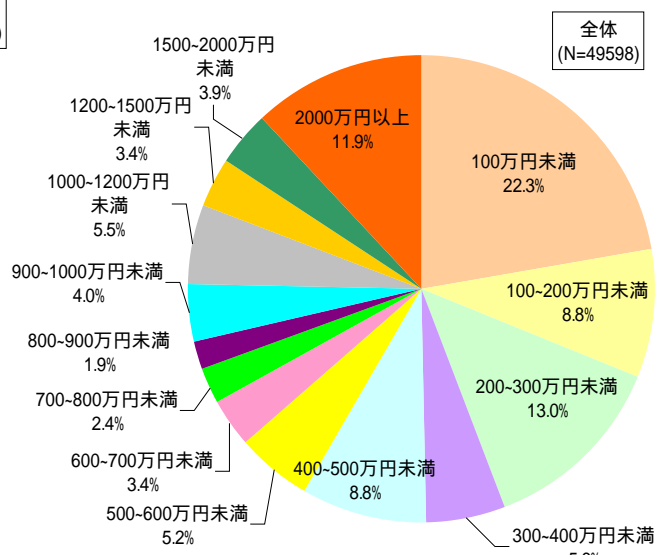
住居形態



世帯総年収



貯蓄合計額



、調査結果（概要）

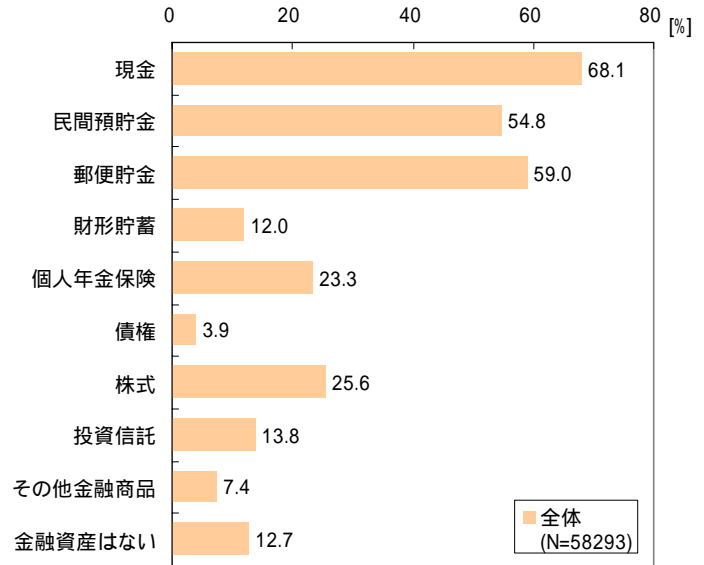
1. 現在保有している金融資産の種類

金額の多少を問わず保有する資産の種類をたずねたところ、現金が68%、次いで郵便貯金59%、民間預貯金55%という結果でした。民営化されたゆうちょ銀行が旧来の民間金融機関を5ポイント上回っている点が特徴的です。店舗網の充実が支持されているのかもしれない。

世界的不況で一時的勢いは衰えているようですが、ある程度リスクを伴う「株式」も26%（4人に1人）という高い保有率を示しています。この人たちが、相当額の預貯金等を有した上で、その「運用」として「株式」を保有しているのか、単に投機的な位置づけで保有しているのか興味のあるところです。

「個人年金保険」も4人に1人が保有していることとなります。これもまた、「公的年金に対する不安」という社会背景が、保有する年代にどう反映しているのかをみる必要があるでしょう。

「個人年金保険」も4人に1人が保有していることとなります。これもまた、「公的年金に対する不安」という社会背景が、保有する年代にどう反映しているのかをみる必要があるでしょう。



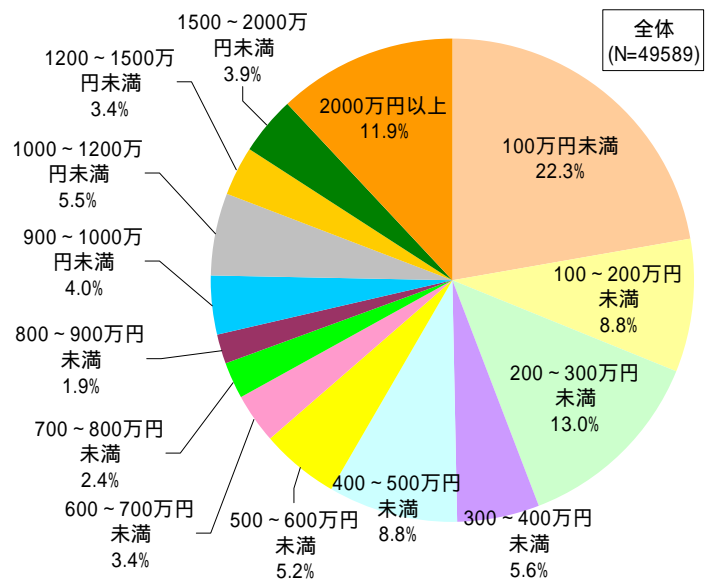
2. 現金、民間預貯金、郵便貯金、財形貯蓄の合計額

保有している金融資産のうち現金および預貯金の総額をたずねたところ、約6割が「500万円未満」の層です。とはいえ、「100万円未満」「100～200万円未満」の層がその半数を占めます。

500万円以上をいくつかの層にまとめてみると、「500～1,000万円未満」が約15%、「1,000万円～1,500万円」が1割弱、「1,500～2,000万円未満」が5%弱を占めています。その上、「2,000万円以上」の層は1割強といった構成です。

平成19年の家計調査年報（貯蓄・負債

編）によると、二人以上の世帯での平均年間収入は649万円、預貯金額は平均999万円となっています。今回実施した調査と家計調査とは、今回の調査では「現金」が含まれていることの違いの他に、対象者の属性（年齢構成・家族数・就業状況）の違いがあります。さらに年齢、家族数、就業状況、年収との関係から詳しくみていく必要があります。



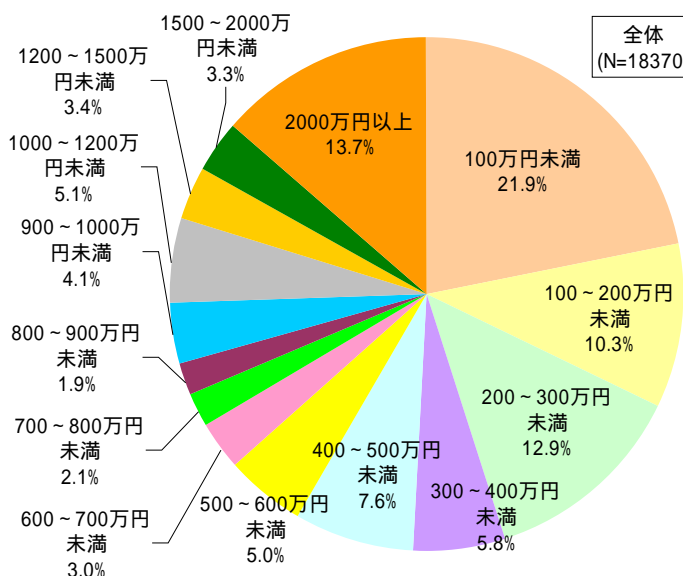
### 3. 債権、株式、投資信託の合計額

保有資産のうち債券、株式、投資信託といったいわゆる有価証券の保有額をたずねたところ、「500万円未満」約6割、「500～1,000万円未満」約15%、「1,000～1,500万円未満」1割弱、「1,500～2,000万円」3%、「2,000万円以上」13%となっています。

これは、現金と預貯金を合わせた保有額の構成とほぼ同じ構成です。

対象者の属性（年齢構成・家族数・就業状況）の違いはありますが、平成19年の家計調査年報（貯蓄・負債編）による二人以上の世帯（平均年収649万円）の有価証券の平均保有額269万円です。

この債券、株式、投資信託の保有状況についても、年齢、家族数、就業状況、年収による保有額の差異や預貯金額との比率の差異をみる必要があります。



### 4. 自家用車の有無と保有台数

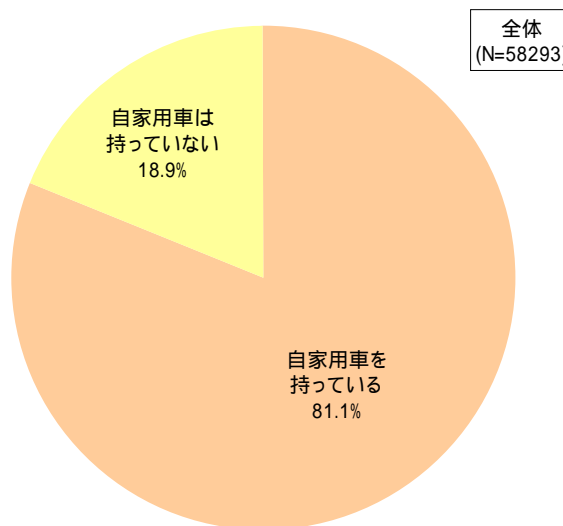
2008年の国内保有台数は自家用乗用車4,112万台、軽乗用車1,598万台、合計5,710万台。

同じく2008年の住民基本台帳世帯数は5,232万世帯。

これからすると、ほぼ1世帯に1台の計算になります。

しかし、家に自家用車を保有しているかとの質問に「持っている」と回答したのは8割にとどまります。

複数台保有している世帯と保有していない世帯があること、また法人所有の自家用乗用車などがあることが要因と思われるが、この他に年代や世帯の特性による差異はもちろん、地域による差異も捉えることが大切でしょう。公共交通機関の充実度、駐車スペースや駐車場賃料による、都心部と郊外部、都市と地方による地域差は明確に現れるはず



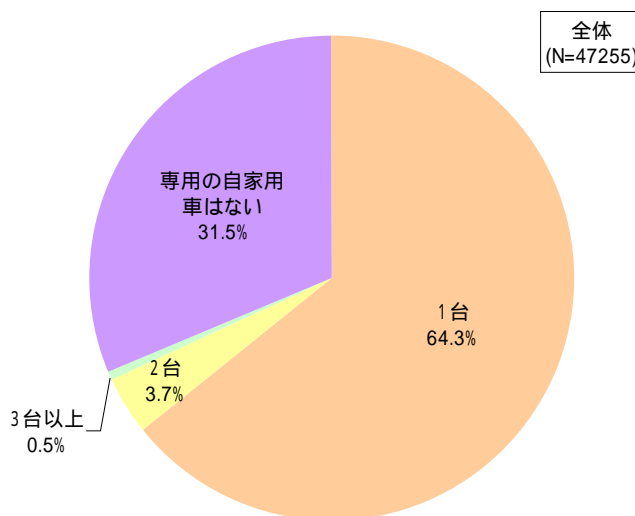
## 5. 自分専用の車の有無

自分専用の自家用車を所有しているかをたずねたところ、「持っている」人が7割、なかには複数台持っている人もみられます。

3割の人は「持っていない」のですが、「持っている」人の割合を年代別にみていけば、何歳くらいから自分専用を持つようになるのかを類推することができます。

当然、これにも地域差があることは想像できます。

2005年国勢調査の18歳以上人口は1億643万人、これと2008年の自家用乗用車と軽乗用車の登録台数5,710万台からすると、おおむね2人に1人が保有している計算になります。



**成果品では、以下の視点からみた特徴も分析しています。ぜひお申込みください。**

- 回答者の年代別(資産運用を始める年代層は? 預貯金額と資産運用額の比率は年代によって異なる? 自分専用の自動車を持ち始める年代は? 新規購入年代は? その地域差は?)
- 現在の住居形態別(住宅ローンを抱える年代の資産運用は? 借家の方が利用する傾向にあるのか?)
- ライフステージ別(扶養家族数と資産運用の関係は?)
- ライフスタイル別(DINKS, DEWKS, SINKS, SIWKSによる違いはあるのか?)
- 世帯総年収別(年収と貯蓄額、有価証券保有額とは正比例するか? 資産運用の開始に収入下限はあるのか?)
- 地域別(地域による世帯あたり自家用車保有台数にどの程度差があるか? 自家用車マーケットを推測する場合地域差をどう見るか? 新規に自家用車を購入する年代の地域差は?) etc

なお、レポートに記載していない集計については、クロス集計サービス「Add Cross」をご契約いただければ、別途有償にてご提供させていただきます。

Research Press

— オンラインネットワースtatレポート —

資産に関する調査レポート

SAMPLE

平成21年11月  
株式会社日本統計センター

本レポートの無断転載・複写を禁じます。また、本レポートにかかわる損害賠償の責は一切負いかねます。本レポートの転載、および一部引用が必要な場合には、[research@nihon-toukei.co.jp](mailto:research@nihon-toukei.co.jp)までお問い合わせください。